

『はじめに』

1978年3月26日「浜北をこよなく愛し、社会的責任を自覚する青年が、相集い力を合わせ、我がふる里をより一層豊かに発展させるために、英知と勇気と情熱を傾注する事を誓う」という創立宣言文のもと浜北青年会議所が創立されました。

森島初代理事長をはじめとする高い志を持った先輩諸氏のたゆまぬ努力、そして何より地域の皆様のご支援ご協力により、昨年創立40年という節目の年を迎えました。改めて40年という歴史を振り返り、先輩方がこれまで続けてこられた「明るい豊かな社会」の実現に向けた想いや活動を知る1年となりました。そんな先輩方の想いを今後45周年、50周年へと引き継いでいけるように1年間邁進して参ります。

私の思い描く青年会議所、それはやはり地域に必要とされる団体であると考えます。青年会議所だからできること、青年会議所にしかできないこと、メンバー一人ひとりがJAYCEEとしての意識とプライドを持ってJC運動・活動を行い地域から必要とされる団体に発展していけるよう、第41期公益社団法人浜北青年会議所の理事長として先頭に立ち走り続けます。

『組織の強化』

会員拡大は青年会議所にとって最も重要な要素です。毎年積極的に拡大活動に取り組んでおりますが、会員数は年々減少しているのが現状です。この危機的状況を打開するために、会員一人ひとりが危機意識をもち、会員拡大についての様々な動機を明確にして共有する機会をもつことで、LOMが一丸となって拡大活動を行えるようにして参ります。また、青年会議所の組織をより強くしていくためには理事をはじめとする全員が結束を高め、基盤をしっかりとさせると共に、入会間もない会員にいち早く力を発揮してもらう必要があります。新しく仲間になったメンバーが青年会議所の目的を共有し、青年会議所の中で何ができて何を実現していくかを考え向き合うことがその第一歩となります。一人ひとりが意識をもって議論し、切磋琢磨していくことで組織はより一層強くなります。

『共に地域活性』

浜松市の人口は年々減少傾向にあり、現在90万人いる人口が30年後には70万人を切るのではという試算があります。そんな現状の中、浜北区は30年後も9万人ほどの人口を保つ試算がされています。しかし、試算はあくまで試算であり、何もせずにいれば「まち」に魅力がなくなり人口は減っていくのではないのでしょうか。

私たち、浜北青年会議所はこのまち「浜北」で活動をする団体です。近年は地域団体の方々との協働を積極的に進め、浜北の魅力の再発見、発信を行いこのまちの未来を見据えた活動として一定の成果を上げてきました。今後も浜北青年会議所では地域協働、市民協働を進めて参りますが、まちづくりを掲げる団体として時代背景や景気動向を正確に分析し地域のニーズに沿った事業を行っていかねば単なる自己満足になってしまいます。近年広く言われる災害時の対応策を講じていくことを通じてこのまち浜北を活性化していけるよう浜北全体を巻き込み、地域の皆様と共に事業を展開して参ります。

『有事への備え』

日本は天災と向き合ってきた歴史があり、被害から学び教訓とすることで未来を生きる人々が同じ苦しみを味わうことがないようにしてきました。地理的条件から様々な天災が発生しやすい日本において、災害は起きるものとして過去から学び日頃より備えていく必要があります。この浜北においても南海トラフ巨大地震をはじめ、様々な天災を想定しておかなければなりません。いつ何時起きてもおかしくない災害に対しての意識や知識の向上はもちろん、発災後の活動の基軸となる「災害ネットワーク」をより実践的なものとするために、日頃からメンバー一人ひとりが祭りや地元の行事を通じて地域の方との付き合いを深めると共に、浜北JCとして地域諸団体との密接な関わりを持ち災害への備えをすると共に、過去の災害事例に学び初動体制や支援活動における青年会議所の担いを明確にすることで有事への備えをして参ります。

『地域の未来を担う』

少子高齢化が叫ばれる現代、青年会議所の掲げる「明るい豊かな社会」づくりにおいて今を生きるこども達の成長はとても重要な要素です。めまぐるしく変化する情報化社会の中で彼らは様々な情報を得ることができ、それを活用することが出来ます。しかし、そんな情報化社会に生まれた現代のこども達はゲームやSNSを通じた友人との付き合いが増え、顔を突き合わせた会話が減った分、相手の気持ちに鈍感になり、他人との付き合い方に弊害が現れています。ゲームやSNSでの交流も現代社会において非常に便利で重要なツールではありますが、それだけではなく実際に人と人が直接つながることの素晴らしさを伝えることで、将来への夢や希望に満ち溢れたこどもを育成できると考えます。夢や希望を持ったこども達は将来この地域にとって大きな光となり、まちを明るく照らし輝いてくれます。

『地域社会のリーダーとして』

我々は青年会議所で何を学び、何を自らの糧としていくのか。それは何のためなのかを今一度考える必要があります。我々は貴重な時間を費やし、自らを成長させるため青年会議所運動に従事しています。それは家庭、会社、そして地域社会においてリーダーシップを発揮して活躍できるようになるためなのではないでしょうか。

浜北青年会議所が所属する静岡ブロック協議会では入会3年未満のメンバーが半数を超えており、それは我々浜北青年会議所も同様です。それらのメンバーに青年会議所の本質を理解して頂き能動的に行動を起こして頂けるようにして行くことで、経験年数の長いメンバーも改めて青年会議所の本質を見つめ直すことができます。これからの青年会議所運動を牽引していく人財育成の場を創出し、JAYCEEとしてだけでなく、この地域を担う責任ある青年経済人としての知識を深め経験を重ねていくことができるよう努めて参ります。

『第45回 J C 青年の船「とうかい号」』

私はこれまで過去3回「とうかい号」に乗船してきました。そこで得られる様々な経験や仲間は普段の仕事や生活の中では決して得ることのできない大変貴重なものだと確信しています。45回目を迎える J C 青年の船「とうかい号」、東海地区協議会で毎年行っているこの事業に本年も一般団員及び J C 団員を輩出します。1週間という限られた時間の中で自己受容、他者信頼、他者貢献といったような様々な効果の得られる「とうかい号」の魅力を内外にアピールし多くの乗船者を輩出できるよう声掛けをして参ります。そして、乗船者の皆様が研修に集中できるよう事前オリエンテーション等の行事を LOM 全体で積極的にサポートしていくことで乗船者の不安を取り除き最大限の効果が得られるよう努めて参ります。

「とうかい号」で出会う素晴らしい仲間達と切磋琢磨しながら過ごす時間、体験を通して、企業・地域に必要とされる次世代のリーダーとしての自己研鑽に努めていただきます。そして下船後は「とうかい号」での経験を活かし地域を担う若者として活躍していただくとともに、浜北青年会議所とも良き関係を築いていただければ更なる地域活性の活力になると考えます。

『結びに』

2009年に浜北青年会議所に入会し10年目を迎えます。入会当初はたいした興味もなく何となく参加していましたが、2011年に「とうかい号」に乗船させていただいたことで考えが変わりました。自分一人では大きな変化を望むことはできないが、青年会議所という団体に活動していくことで、一人ひとは小さな力でも多くの仲間と力を合わせ、このまち浜北をより良く変えていくことができると確信しました。それ以降 LOM で委員長、室長、副理事長、専務理事、静岡ブロックでは「とうかい号」やブロック大会に携わる重要な役職を経験させて頂きました。また2015年には「とうかい号」事務局の会務グループリーダーを務めさせて頂き、事業を創り上げていく大変さや事業が成功したときの達成感を学ばせて頂きました。

私はこれまでの青年会議所活動の中で、多くの方に出会い関わり、ご指導いただきました。そして、これまで気付かなかったことや自分に足りない多くのことを学ぶことができました。青年会議所に入会していなければ、自分の住むまち「浜北」の未来を考えることもなく、多くの素晴らしい仲間と出会うこともありませんでした。自分を変えてくれた浜北青年会議所に感謝すると共に、その感謝の気持ちを常に忘れることなく、諸先輩方が40年間にわたり守り続けてこられた襷をしっかりと受け継ぐことはもちろんのこと、メンバー全員の想いを今の時代に即した運動・活動に傾注し実行することで、新たな一步を踏み出して参ります。